

第1学年国語科学習指導案

1 単元名（教材名） かいがら （東京書籍1年上）

2 単元の目標

場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読むことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。
読む能力	・挿し絵や会話文を手がかりに、場面の様子を想像しながら読んでいる。 (1) ウ
言語についての 知識・理解・技能事項	・言葉には意味による語句のまとまりがある事に気づいている。 イ(ウ) ・会話文の表し方を理解している。 イ(オ)

4 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項(1)ウ「場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

その際、「C 読むこと」の言語活動例「ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」を具体化した「会話文や挿し絵を手がかりにして読み取り、くまのこやうさぎのこのに伝えたいことを話す。」という言語活動を位置付ける。

本教材はくまのこの行動を中心に書かれていて、話の展開をとらえやすい。また、くまのこやうさぎのこの会話は短いながらも気持ちを豊かに表現していて児童の共感を呼ぶであろう。更に会話を想像したり、会話の続きを想像することが楽しんで取り組める教材である。また、挿し絵はどの場面にも、表情豊かなくまのこやうさぎのこの様子が生き生きと描かれていて、登場人物の行動や気持ちを読み取ったり、想像を広げたりする助けとなるものである。

(2) 児童観

1年生の児童は、ひらがな50音の学習が終わったところであるが、名詞を書き表すのが精一杯で、まだ自由に使いこなせる段階ではない。前単元「ぶんをつくろう」で初めて、「～が～する。」の型の、助詞「が」を使って、主語と述語のある文を書いたばかりである。そんな中、少しずつ、名前を表す言葉（名詞）や助詞・動詞などにも目を向け、更には様子を表す言葉（形容詞）にも少しずつ興味を示し始めている。

読むことは、拾い読みがやっとの児童が多い。しかし、「読み聞かせ」は好きで楽しんで聞いている。教室から図書室に近い事もあり、進んで本を借りに行く児童もいる。

そして、毎日の朝読書では、本の世界にひたって読み進める姿が見られ始めている。

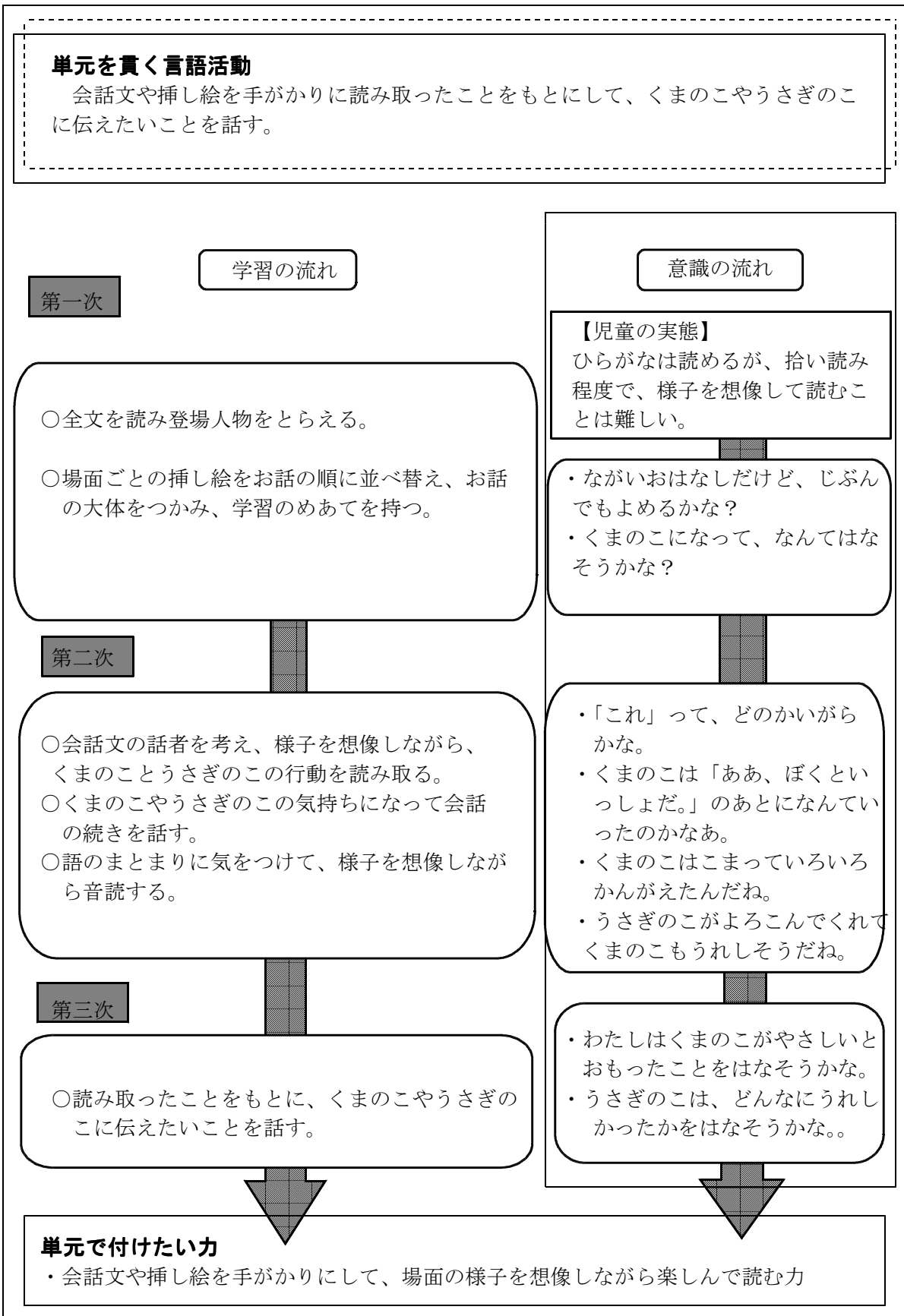
これまでに学習してきたものは「言葉あそびの詩」がほとんどで、ここで初めてまとまったお話を読む学習を行うことになる。

この話は登場人物の行動や気持ちはこども達が共感しやすいものであるが、この時期の児童にとっては長文で、時間の流れも前後するため、理解が難しい児童もあると思われる。

(3) 指導観

- ①第一次では、全文を通読し、挿し絵を参考にお話の大体をおさえ、「くまのこやうさぎのこになってお話をし、終末にはくまのこやうさぎのこに伝えたいことを話す。」という学習のめあてをもたせる。
- ②第二次では、会話文や挿し絵のくまのこやうさぎのこの表情を手がかりにして読み、登場人物の揺れる気持ちを想像させる。また、自分の思いとうさぎのこの返事のずれに戸惑うくまのこの気持ちにより添うために、それぞれの思いを色を変えて掲示したり、注目させたい挿し絵や会話文を取り出して掲示したりして理解の助けとする。そして、具体物やお面などを活用して、くまのこやうさぎのこになって話すことで、楽しみながら登場人物の気持ちや様子の理解に迫らせる。
- ③第三次では、第二次までで読み取ってきたことをもとに、くまのこやうさぎのこに伝えたいことを自分なりの言葉で話す活動を設定する。

5 単元構想図



6 指導計画及び評価計画（全5時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、挿し絵を参考にお話の大体をおさえ、めあてを知る。 	<p>【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面の様子を想像しながら、お話を読んで楽しもうとしている。 <p>(行動・発言)</p>
第二次 (本時)	2	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の話者を考える。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一番好きな貝殻がうさぎのことと同じだったことで貝がらをあげられずに帰るくまのこの気持ちになって話している。 <p>(行動・発言)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> くまのこやうさぎのこの気持ちになって話す。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大好きな友だちに一番いいものをあげようと一生懸命考えた、くまのこの気持ちになって話している。 <p>(行動・発言)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> くまのこの行動を中心に、くまのことうさぎのこの様子を想像しながら音読する。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一番お気に入りの貝殻をあげたくまのここと、もらったうさぎのこの気持ちになって話している。 <p>(行動・発言)</p>
第三次	5	<ul style="list-style-type: none"> くまのこやうさぎのこに伝えたいことを話す。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> くまのこやうさぎのこに伝えたいことを自分なりの言葉で話している。 <p>(行動・発言)</p>

7 本時の学習 (3/5)

(1) 目標 くまのこの行動を中心に、様子を想像しながら楽しんで読むことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 前時の学習を思い出す。	○くまのこが困って帰った事を思い出させる。
2 課題をつかむ ・本時の学習範囲を音読する。 (P 44、45)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">くまのこのきもちをかながえよう。</div>	
3 課題を解決する (1)本時の場面を読む。 (2)くまのこの気持ちを考える。 ○くまのこが「あげる」と決めたのはどの貝がらかを考える。 ○悩んだくまのこが決めたことを確かめる。 ○くまのこはどんなことを考えて悩んだのかくまのこになって話す。 ・個人で考える。 ・ペアで聞き合う。 ・全体で交流する。 ○「一番いいものを大好きな友だちにあげよう」と決めたくまのこ気持ちになって話をする。 ・話者を確かめる。 ・「だいすきなともだち」「いちばんいいもの」をおさえる。 ・迷いのない くまのこの思いを挿し絵から読み取る。 ・くまのこになって話をする。	○挿し絵や会話文を手がかりにして、考えさせる。 ○簡単には決まらなかったことをおさえ、くまのこが一生懸命考えた様子を想像させる。 ○挿し絵を手がかりにして考え、悩んでいるくまのこの気持ちについて想像を広げて話をさせる。 ○くまのこの思いが伝わるように、工夫したり言葉を付け足したりさせる。 ☆くまのこの気持ちになって話そうとしている。 【読】(行動・発言) ※挿し絵を参考にして、くまのこの気持ちを考えさせ、貝がらやお面を使って、くまのこの気持ちに寄り添う助けにさせる。
4 まとめと次時の予告 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">家庭学習</div> <p>かいがらをあげたくまさんと、もらった うさぎさんの気持ちを考えながら読んでこよう。</p> </div>	○貝がらをもらいうさぎのこの気持ちや、その様子を見たくまのこの気持ちを考えることを予告する。